

## 東京大学農学部二宮果樹園跡地の利活用検討について

## 【 沿革 】

東京大学農学部二宮果樹園（以下、「二宮果樹園」という。）は、1926年（大正15年）に現在の二宮町中里に設置され、閉園した2008年（平成20年）までの82年間にわたり教育研究の場として、また、周辺地域との調和を図った町民の憩いの場として、広く町民に親しまれてきました。

## 【 経緯 】

二宮果樹園の閉園にあたり、土地の売却について東京大学より打診がありましたが、当初の打診では東京大学の提示価格での取得は財政的に困難であり断念しました。しかし、平成23年に東京大学より再度、価格を見直した上で打診がありました。

二宮町として、町の中心にある一定規模の広大な土地で将来に渡って有効な土地利用が可能であり、現在、町が課題としている様々な事由に対応するときには有効な土地であると考えられることや、長年にわたり、果樹園として周辺地域との調和を図り町民の憩いの場となっていたことを考慮すると行政が一体的に今後の土地利用を図る必要性が高いと考えられることから、その後交渉を重ねた結果、売買が成立し平成24年3月議会において議決されました。

なお、東京大学の土壌調査により一部について汚染が認められたため、東京大学による除染後に町が取得をします。

## 【 検討 】

検討にあたっては、町民と町が一体となって将来の土地利用構想を考えるため、本検討委員会を設置しました。

また、広く町民の皆様のご意見を伺うために本年6月～9月には町民意見募集を実施したほか、役場内においても庁内委員会を設置しています。

検討委員会では、本年度4回程度の会議を実施し町長へ対し意見書の提出を予定しています。

なお、今回検討をする将来土地利用構想については、現在すでに当町が取り組まなければならない事業が予定されており、その事業終了後に本格的な整備に着手せざるを得ないことから、将来土地利用構想とそれまでの暫定的な土地利用構想についても検討を行っていきます。